

| 関係委員意見聴取書面 | |
|--|---|
| 関係委員 (敬称略) | (所属) 新潟大学農学部農学科 教授 |
| | (氏名) 関島 恒夫 |
| 聴取日 | 令和 7 年 11 月 17 日 (月) |
| 聴取者 | 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 西山 室長補佐 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 河合 審査官 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 袖野 審査官 |
| 要領 2. (3) 利害関係者の除外 | |
| ・意見聴取しようとする事業に係る利害関係の有無。 利害関係 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | |
| 要領 2. (4) 秘密保持の承諾 | |
| ・環境影響評価法手続に基づき作成される図書に含まれる希少な動植物種の生息・生育地の情報その他の秘匿すべき情報を外部にもらさない旨の承諾。 <input checked="" type="checkbox"/> 承諾 ・ 非承諾 | |
| <関係委員意見概要> | |
| クマタカについて | <ul style="list-style-type: none"> ・年間予測衝突数については、現在 0.05 個体／年（1 個体／20 年・ペア）が目安とされているが、年間予測衝突数が 0.05 個体/年より値が小さい場合も、実際にバードストライクが起きている事例もあり、実例と比較を行った上で、幅を以て評価すべき。本件では、0.91 個体/20 年となっており、バードストライクが生じる可能性が高いとして、慎重に検討すべき。 ・クマタカの生態（待ち伏せ型、林内での採餌）を踏まえると、好適採食地の評価は難しく、結果については常にバイアスが掛かっている。また、生態系の評価として、好適採食地の評価のみであり、本来は潜在的な営巣適地の評価も実施すべき。 ・風車の設置により失われる餌場の代替地については、営巣地との距離、営巣適地のポテンシャル、代替地の餌場としての好適性を加味する必要がある。 ・本件では、複数のペアの行動圏が重複しており、風車に近いペアは複数ペアに囲まれているため、繁殖できなくなる可能性が非常に高い。営巣地から 1 km 以内の風車は配置の見直しが必要。 ・電波塔近くで飛翔が見られており、慎重に確認が必要。繁殖に係る行動が確認されている場合は、配慮が必要。 |

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・事後調査については、必ずしも連続した調査である必要はなく、稼働直後、2年目、5年目、10年目等で実施するのが効果的であるが、少なくとも複数年の調査を実施するべきである。毎年繁殖するわけではないため、営巣期のみの調査に絞った上で、複数年調査を実施する等が考えられる。・視認性を高める措置については、ブレード塗装の方がより効果が期待できる。・人工代替巣については、設置に至るまでの過程として、営巣木や餌場の確認、営巣適地のポテンシャルの算出等を行った上で慎重に検討する必要がある。・5月、6月に工事を実施する計画となっているが、繁殖が成功した場合は孵化後の幼鳥がいるため、営巣放棄に繋がりやすく、工事は厳に慎むべき。 |
|--|--|